

教員による授業相互研修制実施報告

本間三和子, 安藤真太郎, 松元 剛, 河村レイ子, 武田 剛, 小山宏之

教員のFDの一環として平成19年度に「教員による授業相互研修制」を試験導入し、本平成20年度も継続して実施したので報告する。

I 平成19年度試験導入実施報告

平成19年度は、教員による授業相互研修制を試験的に実施し、実施後に簡単なアンケートを行った。教員による授業相互研修の試験導入の目的、期間、研修方法を以下のように設定し、体育センター全教員に参加を呼びかけた。

1.1 授業相互研修の目的・期間・研修方法 他の教員および種目の共通体育授業を視察

することで、教員の授業能力の向上、授業内容の改善ならびに相互がどのような授業を展開しているのかの理解を深めることを目的とした。授業相互研修の期間は、1学期の平成19年6月11日(月)～6月15日(金)の1週間とした。研修方法は、期間中、共通科目体育の授業の中から、1科目(1時限)またはそれ以上を選択して研修することとした。

1.2 結果

8名の教員が他の科目の研修に参加した。肯定的な意見が出され、相互研修の意義は高いと考えられた。表1にアンケート回答結果を示す。

表1 実施後のアンケート結果 (回答12名)

授業科目名	意見
全3 剣道	今後も続けるべきと考えます。
参加しなかった	言い訳なのですが、今回は多忙で参加できませんでした。ただ、教員の相互研修に関しては大賛成の立場です。以前、自分のMCの授業実習の中でセンターの共通体育の授業研修を行ったり、私自身の授業「つくばマラソン」にこれまでに多くの先生が参加してくださり、非常に勉強になっています。
全3 剣道	運動種目の特性の違いによって指導法、授業の組み立てはちろんのこと、学生との距離感やアプローチの方法等に大きな違いがあることを再認識した。また、同じ組織に所属する教員の普段日にするのことができない一面を垣間見ることができた。有意義であった。
木2 ハンドボール 火2 器械運動	自分の授業の幅を広げるよい機会だと思う。
木2 ゴルフ	毎年ある期間を指定し、年間数回でも行うことができれば良いのでは。
火3 バドミントン	科目の特性は異なるものの、指導方法や用具の工夫など大いに参考になった。今回の研修で得られたことを参考に今後の自分の授業でも取り入れたい。
参加しなかった	グラウンド種目(タッチフット)を予定していましたが、雨上がりで教室に移動のため参加なしになりました。
参加しなかった	予定していた時間に急遽大学本部での会議が入り、残念ですが参加できませんでした。できれば、時期を変えて研修期間(年間2回程度)を設定し、積極的に参加し、自分の授業に生かしていきたいと思っています。
全3 テニス	今後も積極的に取り組んでいくべきである。
火2 器械運動	他種目という点からも、他の教官から見ると「共通科目体育」のねらいの達成への手段という点からも大変参考になりました。
参加しなかった	
木3 卓球	新たな視点が開け、大変意義深く感じる。

体育センターFD・危機管理委員会

1.3 今後(来年度)について

試験導入の問題点

参加者のアンケート結果を受けて、FD・危機管理委員会で今後について話し合った。その結果、全体に肯定的な意見が多かったことから今後も継続する方向で検討することとした。今回の試験導入では、期間、参加形態などを限定していたので、来年度は柔軟にすることが課題に挙げられた。具体的には、「期間が短く限定されていたため、調整できずに参加できなかった」「天候によって予定通りに研修に参加できなかった」「受けたかった授業はあったが、日程が合わずに参加できなかった」などの意見があったため、研修期間を長めに設定することとする。また、「1週間前までに研修希望授業の先生に了解を得ること」としていたが、「事前に了解をとる」というように柔軟にしたい。「基本的には見学というスタンスでの研修」としていたが、「相互に了解を得られれば受講生に混じって授業を体験してもよい」ことにし、それぞれ改善することとした。

平成20年度の実施案

上述の問題を受け、平成20年度はつぎのような形で授業相互研修制を継続実施することとした。

- ・ 期間を1学期の5月中旬～6月中旬とする。
- ・ 事前に希望の研修授業の担当教員に了解を得る。
- ・ 研修スタイルは見学、体験など、担当教員と相談して決める。
- ・ 研修に参加した後、今年度と同様に簡単な報告を本委員会宛に出してもらう(参加した授業名と感想程度)。書式は委員会で作成。
- ・ 研修を受けさせてもらった教員へのフィードバックを、口頭またはメモでしてあげられるとなお望ましい。

Ⅱ 平成20年度実施報告

平成19年度の試験導入の結果(平成20年度実施案を含む)を受け、以下のように実施した。また、研修後、研修の成果に関するアンケートを行い、さらに意見を直接交換するための懇談会を行った。

1.1 授業相互研修の目的・期間・研修方法

本年度の教員による授業相互研修の目的は、他教員、他科目の共通体育授業を視察または一部参加することによって、教員相互の授業能力の向上、授業内容の改善に資する情報を得ること、ならびに意見交換等を通して相互理解を深めることとした。研修期間は、平成20年5月19日(月)～6月13日(金)とし、前回よりも期間を長く設定した。研修の方法は、①上記期間中、共通科目体育の授業の中から、1科目(1時限)またはそれ以上を選択して研修する。②研修日時、研修形態(見学・一部実技参加等)は、研修希望科目の担当教員と事前に相談する。③研修者は、研修受け入れ教員に感想、助言などを求められた場合、フィードバックし、意見交換することが望ましい。④研修終了後、研修の成果に関する簡単なアンケートを提出する。とし、全教員に周知した。

1.2 結果

10名が他の科目の相互研修に参加した。アンケート結果は表2に示した。「指導力の高さに感心した」「効率的な授業運営に感心した」「クラスによって学生や授業の雰囲気異なることを感じた」「大変刺激になった」など肯定的意見がほとんどで、昨年の試験的導入よりもかなり積極的にこのシステムを活用しようという姿勢がみられた。

表2 研修後のアンケート結果

科目名	研修に参加して	授業相互研修制について
木3 フラッグフット ボール	研修を受けることで、学生の反応を違った角度から見る事ができると、他人のHow toも見れ、自身の授業展開の参考になる。	1年に1回は、このような形で研修を推奨していただくことが良いと思います。 必要であり、良いことなどは分かっていますが、なかなか自分の動きにくくなっていると思われるため。
火2 剣道	今回研修させてもらった剣道は私にとって日常触れることの少ない科目で、基本的な知識や技能、作法や所作などの指導にはかみゆりの専門性が要求されるであろうと感じた。 初心者や学生に、ひとつひとつの技を習得させることの大変さを容易に想像できた。 限られた時間で適確な指導がなされるのを見て指導力の高さを実感させられた。 また、用具や服装などの準備や片付け、手入れなどにもかみゆりの努力が必要であり先生方のご苦労がわかった。	技術の組み立て方、個々の学生への対応の仕方など大いに参考となり、自分の授業を振り返るのに役立った。 わたしは同一種目の他の教員の授業にも参加させてもらい、自分の授業を見直す機会を持ち授業の改善に役立っている。
木3 フラッグフット ボール	「規定の人数の2チームが」「1個のボールを」「同じコート上で」「規定のルールに従いつつ」「一定時間プレイして」「得点の相対比を争う」ゲームであるという、バスケットボールと同じ特性を持つ授業を研修した。 学生がこのゲームの特性及び戦術課題を理解して、ゲームのフォーメーションを主体的に考え、ゲームで実践している様子が窺えた。 1学期の最後の授業という点もあるが、非常に参考になった。 これからは教員ともしっかりディスカッションを行ってほしい。	私事で恐縮だが、1学期は授業が多く、本来なら研修できる時間が専門学群協力教員が担当している水3限のみであった。木3限は講義が1週前を終了させたために最終週(6月19日)に研修することができました。 2学期にこのような機会があると良いと思います。ご検討ください。
火2 柔道 火3 卓球	異分野の科目に参加しました。学生がとてもさわやかで「学生って案外運動好きなんだ」と感じました。自分のクラスとはまた違った雰囲気があり、新鮮でした。つよつよなそうしている学生は皆無でした。先生方は、適切な運動量で学生をうまく引き付け、その種目の面白さや奥深さをきちんと伝えられているのを感じました。大変勉強になりました。卓球でローテーションさせてペアを交替していく方法は私の授業でも使わせていただき、活用しています。	普段、研修したいと思っただけで忙しさにかまけてなかなか実践できません。このような形で研修推奨期間を設けると、背中を押されて参加するので、とてもいいことだと思います。同じ体育センターの仲間がどのような授業を展開しているのか、ほんの一部しか触れられませんが、それでも感じただけは甚だ取れます。やはり自身が目撃している気持ちを持ち、それを再現することは大変意味のあることだと思います。
水3 野外運動	「体験」「挑戦」「コミュニケーション」といったキーワードがおそらくみんなに盛り込まれているであろうという事と、それを授業の中でどのように展開していくのだろうという興味と期待感を持って、坂本先生の野外運動の授業研修に参加しました。 感想を一言で表現すれば、予想をはるかに上回る内容の充実ぶりに驚くとともに、何より実際に見てみることで大変な達成感を感じました。この授業では、「学生の主体性」、「学生同士のコミュニケーションと協力体制」、「創意工夫」「挑戦」といったことが重視されます。いや、重視されるといふより、それが不可欠になるようにカリキュラムが上手に組まれています。 「挑戦」に値する適切なハードルの高さの設定と最低限の指示・安全性の配慮をした上で、坂本先生がしっかりと見守る手法には、この分野で多くの方々から永年におわり培ってきたであろう安定感と信頼感とが感じられました。目標を何とかクリアした後の学生たちの晴れやかな顔つきや元気な足どりに、間わず語りとその成果が現われていました。授業終盤での班ごと(10名弱)のミーティングも、また効果的でした。実践の直後に振り返ることを通じて、学生同士の間、教員と学生の間にコミュニケーションが生み出されていました。	まず、本制度については大変感謝です。時間的な制約というデメリットを差し引いても、このことのみならず、リットの方が明らかに大きいです。 時期を区切って、基本的に全員が研修するという方法は、常に忙しい教員にとっては却って研修を実現させる良い後押しになると思います。「授業研修はおそらく効果的であろう」と多くの先生方が長年思いつけてこられたと推察します。ただ、日頃の忙しさから、つい実現に至らずに今日までできてしまったので、この制度は是非、今後とも継続してください。 ただ、1度の研修期間でありにも多くの回数が必要されたり、1度に多くの研修を受けることが当然といったムードが広がり過ぎると、教員の負担が過度になる恐れもあります。適切な量の見極めは大切であると考えます。
月4 テニス(中級) 金5 つくばマラソン	自分の能力開発という意味合いで授業に参加したがテニスであれば、初級者が陥りやすい誤った技術に対する理解を正す工夫がされていると感じた。 つくばマラソンでは、比較的「走る」という単純な運動様式をあきさせないように、かつレベルに合った教材の提示が行われており、大変参考になった。	相互の研修はたいへん行う必要があると思う。 自分の授業がインスパイアされたためにも、他教員の授業に参観することの意義は大きい。
火3 ジョグ&ワーク 火3 剣道	普段体験しない教材に取り組んでみることは、非常に新鮮であった。 なぜか、学生の授業の態度や様子も新鮮に感じました。ご担当の先生によって学生の雰囲気や様子も異なるのではないかと思います。 教材の特徴から様々な学習目標が考えられ、体育の可能性の大きさを感じました。 自身の体育を振り返るにあたり、研修に参加することが役に立ちました。	時間が許すならば、複数の授業に参加すると効果が大いように感じました。 授業によっては、ある程度学習が進んでからの方が良い授業もあるように思われます。 ので、2学期、3学期に研修があってもよいと感じました。
月4 ハンドボール 木1 ダンス	とても有意義であった。 いずれの授業も担当されている先生のエネルギー溢れる雰囲気が印象的であった。また、一つのプログラムの最終目標を達成するための構成要素になっているということが個々の学生にもきちんと浸透しているため、学生のモチベーションも高く、それが技能習得のテンポの早さにもつながっていると思う。 今後参考にすべき点がたくさんあり、大いに刺激を受けた。	とても有意義だと思う。 今後も継続して行ってほしい。
金3 テニス上級	自分自身の授業展開と比べると参考になりました。また、筑波大学の専門教員による「一般体育は、筑波大学における一つの魅力である」と再認識しました。	今回は参加できませんでした。しかし、担当するジョグ&ワーク(火3)に××先生がご参加くださり、また毎年つくばマラソンに数名の先生が研修として通年で授業に参加してくださっています。その中でお互いに意見交換することが僕自身の研修にも役立っています。できれば参加したかったです。スマニセン。
木1 アクアアキササイ	大変有意義でした。 担当教員の教育力の大きさに感動しました。 授業運営のきめ細やかさ、IAの活用方法の巧みさ、学生への指示の的確さ等、目から鱗が落ちるよう新鮮やかに見せていただきました。	* 研修を複数で受けられたいと感じました。自分の感じたこと、観察して考えたことなどについて、同じ授業を研修した人がどのように感じたり、考えたりの話を聞いてみたいと思いました。 * できれば、授業担当者や研修者で直後にも、お話しできると生のリアルな情報交換、意見交換ができるなあと感じました。 * 茶話会が楽しみです * 是非、この制度を積極的に推進していただきたいと思っています

2. 懇談会

相互研修を終えて、その成果やシステムについて自由に意見交換をした。参加教員だけでなく、今回参加できなかった教員も参加した。懇談会の日時は、平成20年6月25日(水)13:00-14:30とし、参加者は教員12名、準研究員4名の計16名であった。

懇談会で出された意見は、授業運営、学生とのコミュニケーション法、技術指導法など、多くのことを学ぶことができ、大変有意義であったという肯定的なものがほとんどであった。他科目の特性を理解し、授業の一部を観察(または参加)することで、それぞれが自身の授業運営を再考することができたようである。一方、相互研修システムについて、複数の教員が同じ授業を研修してみてもどうか(捉え方が異なるかもしれない。それによってディスカッションを深められる)、研修期間にもっと幅を持たせられないか、などの意見も出された。そして、今後も継続すべきという結論に至った。意見の詳細は表3に示す。

今後の課題

参加者のアンケート結果ならびに懇談会での意見を踏まえて、次のことが課題に挙げられた。

・ 研修期間に幅を持たせる

「受け入れ側として自分のプログラムの中で、ぜひ見せたい、見てもらいたいものがある。研修時期を設定されると、シラバ

スのスケジュール上、ぜひ見てもらいたいものを展開できなかった。」という意見があったので、1学期、2学期、3学期の各学期で2週間ずつの研修可能期間を設定するなど、期間の幅を持たせるようにしたい。

・ 研修方法の工夫

「一つの科目に複数の教員が参加する形もいいのではないかと。同じ授業でも先生によって受け取り方が異なる場合もあり、勉強になる。」という意見より、複数の教員が同じ授業を同時に研修し、研修後にディスカッションを持つ、という形を一部取り入れる方向で考えたい。

「異色の学生が翌年どのように他の科目を履修しているのか、担当の先生がどのように接しているのか、そのような学生を追跡して研修してみたい。」「平均からはずれた学生の指導法やコミュニケーションの取り方、他の先生がどのように指導しているのか知りたい。」「教員が指導上で悩んだときに相談できる場所があるとよい。」などの意見を受け、学期に1回程度の頻度で授業改善ミーティングを開催し、教員間の意見交換の場を積極的に設けるようにしたい。

体育センターFD・危機管理委員会では、今後、改善を重ねながら、次年度以降も教員のFD活動を発展的に継続する意向である。

表3 懇談会で出された意見

ア	<ul style="list-style-type: none"> 多くの先生や準研究員が授業「つくばマラソン」に参加してくれており、よい刺激になっている。 なかなか人の授業を見る機会がないので、このような研修は意義がある。
イ	<ul style="list-style-type: none"> [受け入れ側]自分のプログラムの中で、ぜひ見せたい、見てもらいたいものがある。研修時期を設定されると、シラバスのスケジュール上、ぜひ見てもらいたいものを展開できなかった。研修期間を柔軟に持たせるとよいのではないか。 [研修参加側]先生によって学生の雰囲気はずいぶん違うことがわかった。教科が異なるので新たな発見があったりしてとても参考になる。
ウ	<ul style="list-style-type: none"> 今回は本相互研修に参加しなかった。 「つくばマラソン」に参加して4年目になる。目的は自己の実技研修である。 先日の監事監査の際、お一人の監査が「大学は授業である。」と述べていた。授業評価と相互研修に対して高い評価をもらった。授業評価の低い人に対して研修を受けさせる必要があるのでは？ 授業評価の結果と自分の感覚が違った場合、他の人に授業を外から見てもらってそのあたりの分析ができると面白い。
エ	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価の結果がぐんと伸びた人に、その人がどのように改善したかを話してもらおうのもよいのではないかと。(授業改善ミーティング等で)
ア	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価の結果だけでその先生の授業能力の優劣を量れないのではないかと？母集団が異なるので一概に比較できない。例えばもともとスポーツが好きな学生が多いクラスもあれば、第2希望以下の学生が多いクラスもあるので比較は難しい。 授業評価の結果は全員が高いので、結果が低い教員を選ぶのも難しいのではないかと。
オ	<ul style="list-style-type: none"> 1学期は授業が詰まっており、受けたい授業の時間が調整できなかった。忙しくて研修に参加できない時期もあるので、研修期間をバラエティに設定してほしい。各学期、設定してはどうか？
カ	<ul style="list-style-type: none"> 研修期間の設定は必要。受け入れを頼みやすい。
エ	<ul style="list-style-type: none"> 若い頃は人から自分の授業を見られるのは自信がなく嫌だったが、講義の際に他の先生の講義を聞いてその先生の関心のあるところが理解でき、他の先生の授業に関心を持つようになった。
キ	<ul style="list-style-type: none"> 研修に参加し、これまで教育力＝指導方法力と思っていたが、教育力＝人間力だと思った。学生の教員を見る眼が「敬愛」の眼であった。指示が直接的でダイレクト。長期にわたって研修したい。研修直後に担当者と質疑ができれば良かったが、今回その時間が取れなかったのが残念であった。
ク	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの取り方を研修したかったので、××先生の授業に参加した。自分が学びたかったことのすべてがその授業には組み込まれていて、かいま見ることができた。
ケ	<ul style="list-style-type: none"> 赴任して以来、毎年、他科目の授業の研修を行っている。目的は自己の実技能力の向上。今年はテニスとつくばマラソン。テニスでは、××先生の小さな話し声は学生が耳を澄まさないといけない。学生は聞き取ろうといっしょうけんめい耳を傾けており、先生は意図していないがうまく指導法だと思う。
コ	<ul style="list-style-type: none"> 準研時代からいろんな先生の授業を研修してきて、そのノウハウを自分の授業に取り入れている。自分の授業は他の先生方を参考にして出来上がっている。
サ	<ul style="list-style-type: none"> 今回、研修に参加しなかったが、研修を受け入れた。緊張し、いつもより気合いが入ったと思う。 昨年、クラスの中に、異色の学生がひとりいた。その学生が翌年どのように他の科目を履修しているのか、担当の先生がどのように接しているのか、とても気になる。そのような学生を追跡して研修してみたいという気持ちがある。
シ	<ul style="list-style-type: none"> 柔道と卓球に参加。柔道では女子学生がほとんどで運動が苦手な感じの学生が多かったが、皆積極的に受け身等に取り組んでいた。きっとそれまでの授業で先生が学生のモチベーションを高めてきていたのだと感じ、どのように学生を持っていったのかを見たいと思った。卓球では、自分は学生といっしょに授業に参加し、大変楽しかった。ちょうどよい運動量で満足度の高い授業だった。経験者と未経験者が混じていたが、レベルが違っても楽しくゲームを展開できるよう初心者が経験者に当たらないように工夫されていた。またローテーションしてペアを組み替える方法は参考になり、自分の授業でも早速取り入れた。

キ	・ 研修システムについては、自由参加OK、自主参加がのぞましい。教員の評価につながるようなシステムにならない方がよい。
ア	・ サ先生が話されたように、平均からはずれた学生の指導法やコミュニケーションの取り方、他の先生がどのように指導しているのか知りたい。
カ	・ 特殊な学生の扱いについては、みなそれぞれに対処法を持っているのではないか。
キ	・ 教員が指導上で悩んだときに相談できる場所があるとよい。
オ	・ バスケットボールに共通点のあるフライングフットに参加した。グループごとにノートを持ってフォーメーションを考えるのだが、これは自分の授業にも使えると思った。
ウ	・ システムについて、ずっとフリーでもいいが、研修科目が偏ってくる可能性がある。 ・ 一つの科目に複数の教員が参加する形もいいのではないか。同じ授業でも先生によって受け取り方が異なる場合もあり、勉強になる。
ス	・ ルールの変遷、歴史などを含めた授業をやっている先生が多いので役に立つ。
セ	・ 現在4科目研修している。スポーツは好きだったが、「体育」は好きでなかった。今は研修がとても楽しい。つくばの学生が楽しく授業を受けられている理由は知的好奇心を刺激しながら展開しているからだと思う。これまでの授業は実技能力を高めることが第一であったが、バドミントンの授業では人間教育を高めるような工夫がある。
ソ	・ 再履修の学生は違う学年なのでクラスにいつらい感じがする。再履修の学生が受けやすい環境を作ってはどうか。
タ	・ テニス、ゴルフの研修をしている。競泳専門で、こういう身体をしているが実は陸上の運動が苦手。そのため研修を通じて下手な人の気持ちになれる。 ・ 体専の学生はだるそうに授業を受けている。部活動にエネルギーを割いているのだなあと感じる。対して一般学生はとても楽しく授業を受けている。